

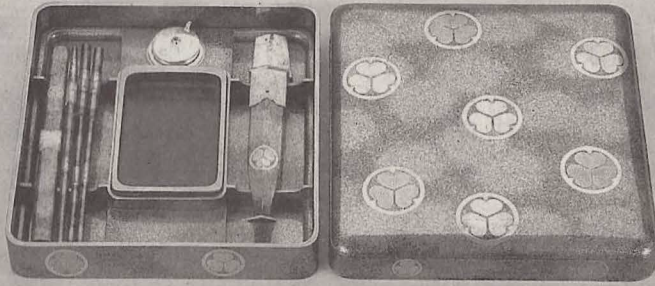
えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑩

文化庁が運営する「文化 見ることができ、当館の主
遺産オンライン」というポ 要な収蔵品もこのサイトを
ータルサイトを「存じだろ 利用し、現在173件を公

尾張徳川家と同一意匠

つか。全国の博物館・美術 開している。
館等から提供された文化財 2月、愛知県岡崎市にあ
のさまざまな情報を誰でも 「三河武士のやかた家康



叢梨地葵紋散蒔絵硯箱。江戸時代。
県歴史文化博物館蔵

館」の学芸員から「叢梨地
葵紋散蒔絵硯箱（むらなし
じあおいもんちらしまき
えすずりばこ）」について
問い合わせがあった。同
館では、尾張徳川家11代斉
温（なりはる）に嫁いだ俊
恭院福君（しゅんきよ）の
硯箱が西条藩の隅切り葵
紋ではなく丸に葵紋である
こと、収納する外箱を2重
にするなど嚴重に保管し
てあることから将軍家や御
三家からの拝領品であろ
うと推測することとまっ
た。

所蔵しており、3月下旬か
ら始まる展覧会の準備中
に文化財オンラインで検索
したところ、同じデザイン
の硯箱の存在に気付いた
そつだ。画像を送ってもら
うと、確かに蒔絵デザイ
ンが同じで驚いた。見つけ
た学芸員は興奮したに違
ない。

当館所蔵の硯箱で意匠な
どを紹介したい。叢梨地と
は、黒漆塗りの上に金や銀
の粉を濃淡をつけてまだら
にまいた漆技法の一つであ
る。かすみがかかったよう
な幽玄な雰囲気のある漆地
に金の蒔絵で丸に葵紋を散
らし、華やかさも備えた意
匠である。

（専門学芸員・宇都宮美紀）
〈随時掲載します〉